





Top Runner Interview Project 2011



<http://uceenet.jp/uceenet/codb2/index.php>

2011年度報告会(東工大, 東大)



小澤直樹(修士2年)
東京工業大学 大学院
機械宇宙システム専攻

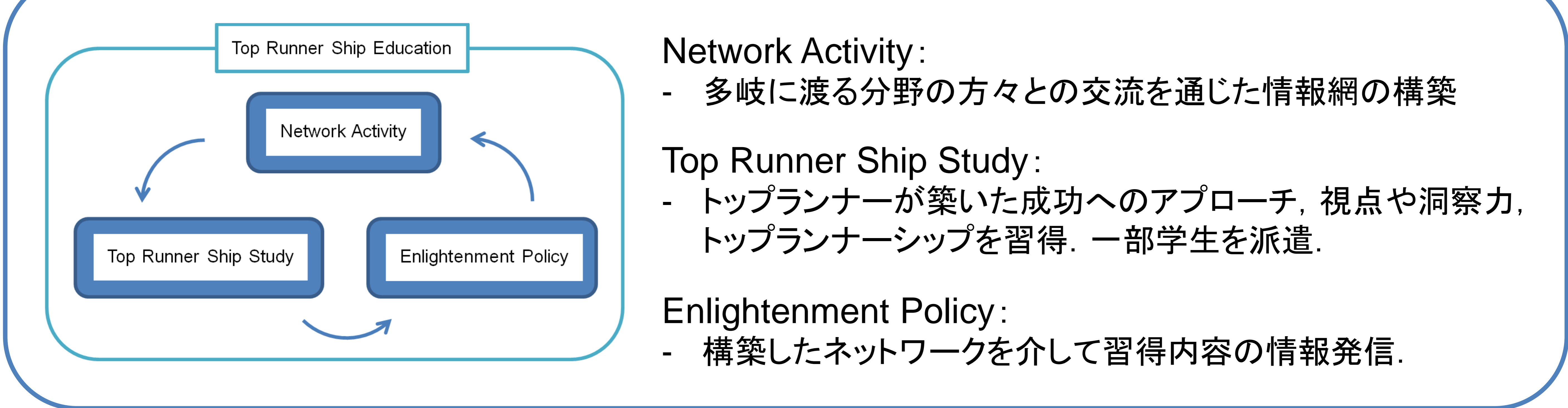
市川達也(修士2年)
東京大学 大学院
人間環境学専攻

西嶋拓哉(修士2年)
筑波大学 大学院
電子物理学専攻

3 Activities for Next Top Runners: 次世代トップランナーの育成機会



Top Runner Interview: 21世紀の工学者として歩むべき道とは?



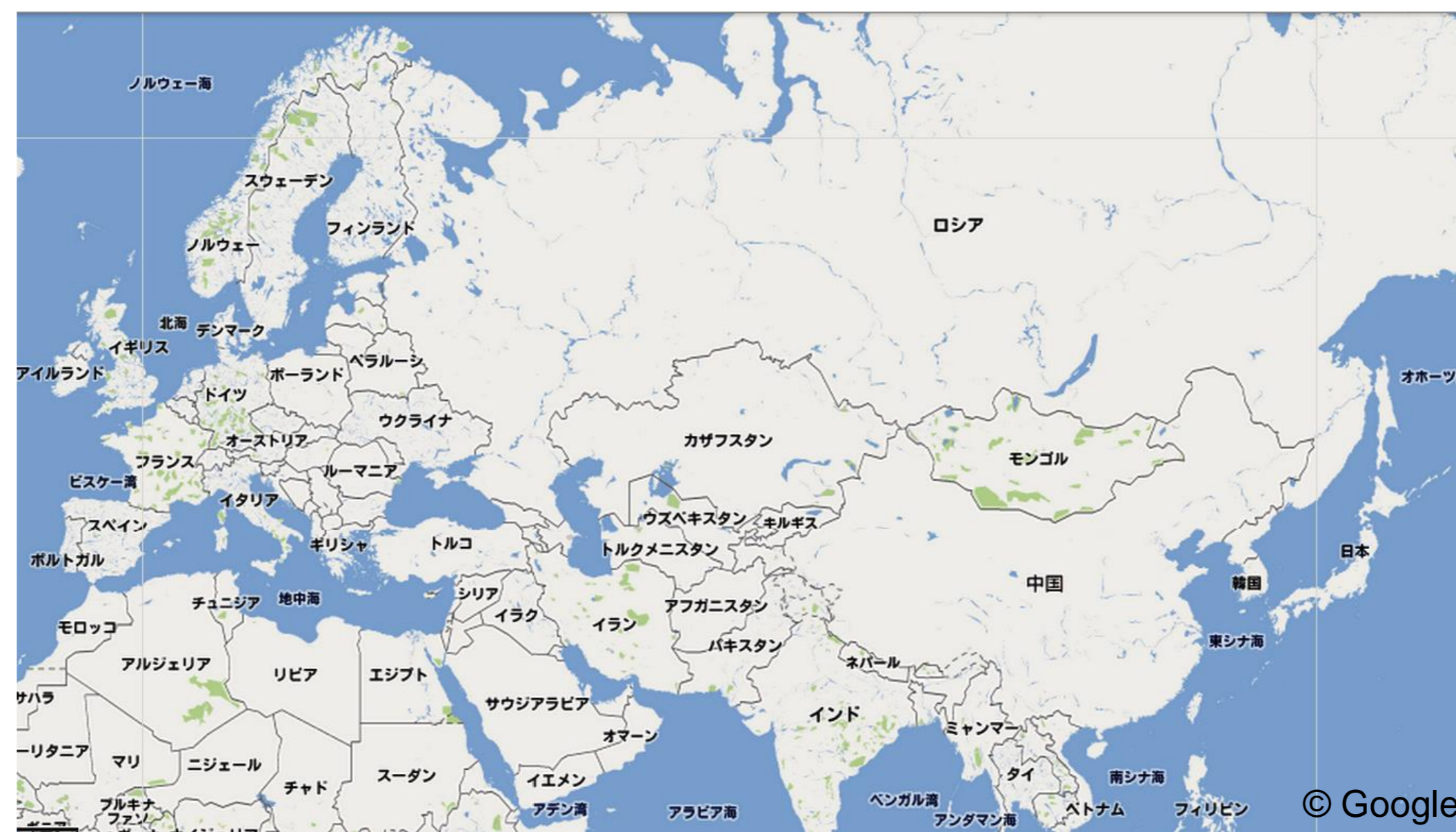
for Participants

国際化に伴い専門領域などの境界が失われ, 従来にない知識の構築方法が求められる. 本企画を通じ, 世界の第一線で活躍するトップランナーが持つ21世紀の知識のあり方を学ぶ.



for the Society

工学とは社会に対し, 革新的な技術や知識を提供する実学に近い学問である. 海外では少しずつではあるが, 比較的小さな研究結果も成果として認められる様になっている. 完全というものを求めるのではなく, 築いていく時代が近づいている. しかし, これら成果は常に安心や安全という, 社会の要求に応えるものとして, あり続けなければならない.



for Japan

技術立国としての日本の真の国際競争力が試されている. 価格では太刀打ちできない新興国との国際競争に対し, 日本が持つ優位性を明確に示す時が近づいている. その中で, 日本における技術という価値に目を向け, 教え育む環境創出が求められている. 人材, 知識, 技術が日本における真の国際競争力として, 成長を止めることを避けられない.



for the World

国際化に伴い先端研究のフィールドは, 国境・人種・言語の壁を越えた環境に変わりつつある. 世界の研究動向からも, 科学者は世界に身を投げ, 人脈というアンテナを築いていくことが求められる.



What We Felt and Considered: 誰よりも好きなものを見つけ挑戦を止めるな

国際化によって変わった国境という概念は, 世界各国の社会や経済をも変えてきた. これら変調の影響は, 工学にも同様に及んでいる. 世界という視点は, 現代人に求められる必須の素養である. 今回出会ったトップランナー達は, これら現状を踏まえつつも過度に捕らわれることは無い. それは誰よりも深層心理の追求に挑戦し, 世界をリードする存在の為である. トップランナーとは世界で最も飽くなき挑戦を続ける人達である.

